

# Hachioji.pm #3 LT

2011-03-26 まかまか般若波羅蜜

LT のネタが思いつかないときに  
15 分で資料を完成させる

バッドノウハウハ

・机の上にそっと置き、担当者が「始め」と言ったら 1 ページ目をめくってください。

## BK 1

とりあえず笑いを取れるように仕込んでおく。わざと誤字脱字をいれておけば気付いた人がクスクス。こうすることで「内容のなさ」から聴衆の目をそらすことができる。

## BK 2

奇をてらう。例えば A4 と言われているのに小冊子にしてしまおうとか。こうすることで「内容のなさ」から聴衆の目をそらすことができる。

ВК 3

文 字

を で

か く  
する。

※BKではないという説も

# ここらで真面目に Perl 5.6 で utf8 系モジュールをエミュレートする方法

Perl 5.8 系で `utf8::is_utf8`、`utf8::decode`、`utf8::dencode` 等が使えますが、強引に 5.6 系でも実現してみます。ただしそもそも `utf8::`系を使うこと自体が駄目なのですが、さらに 5.6 系でやる(やってはいけない)という色んな意味でひどい技です。

でも、昔頑張って作ったので誰かに伝えたいのですよ！

```
sub utf8::is_utf8 {
    my $len = length $_[0];
    {
        use bytes; #
        return $len != length $_[0];
    }
}

sub utf8::encode ($) { # UTF8 flag off
    if ( utf8::is_utf8( $_[0] ) ) {
        $_[0] = pack( "C*", unpack( "C*", $_[0] ) );
    }
    else {
        $_[0] = pack( "U*", unpack( "C*", $_[0] ) );
        $_[0] = pack( "C*", unpack( "C*", $_[0] ) );
    }
}

sub utf8::decode ($) { # UTF8 flag on
    if ( !_is_valid_utf8( $_[0] ) ) {
        utf8::downgrade( $_[0] );
        $_[0] = pack( "U*", unpack( "U*", $_[0] ) );
    }
}
```

```

}

sub utf8::downgrade ($;$) {
    return 1 unless ( utf8::is_utf8( $_[0] ) );

    if ( _is_valid_utf8( $_[0] ) ) {
        my $downgrade;
        for my $c ( unpack( "U*", $_[0] ) ) {
            if ( $c < 256 ) {
                $downgrade .= pack("C", $c);
            }
            else {
                $downgrade .= pack("U", $c);
            }
        }
        $_[0] = $downgrade;
        return 1;
    }
    else {
        Carp::croak("Wide character in subroutine entry")
    unless ( $_[1] );
        0;
    }
}

```

※\_is\_valid\_utf8 は割愛。単にバイト列が valid な UTF-8 かどうかをチェックしている

## BK4

最後にちょっと真面目そうな内容をいれておくと「ああ、この人は一見いい加減な感じだけど実は違うんだな」と思われるはずもなく。

※本来の意味のBKじゃなくて単なるBadなLTですね。